
1. 学歴

1992 年 3 月 一橋大学経済学部卒業
1992 年 4 月 一橋大学経済学研究科修士課程入学
1994 年 3 月 一橋大学経済学研究科修士号取得
1994 年 4 月 一橋大学経済学研究科博士課程入学
1995 年 9 月 クイーンズ大学(カナダ)経済学部博士課程入学
1998 年 5 月 クイーンズ大学(カナダ)経済学部 Ph. D 取得
1998 年 12 月 一橋大学経済学研究科博士課程退学

2. 職歴・研究歴

1999 年 1 月 一橋大学経済学研究科専任講師
2002 年 4 月 一橋大学経済学研究科助教授(2007 年 4 月より准教授)
2009 年 10 月 一橋大学経済学研究科教授
2012 年 4 月 一橋大学国際・公共政策研究部 国際・公共政策大学院長

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

地方財政論, 財政学

(b) 大学院

公共経済分析(国際・公共政策大学院), 医療保険論, 地方財政(アジア公共政策大学院)

B. ゼミナール

学部後期, 大学院(研究科・政策大学院)

C. 講義およびゼミナールの指導方針

講義は、関連する経済問題(財政・地方分権など)に対する経済学の視点の提供を目的としている。よって、単に理論モデルを展開するに留まらず、それをを用いて現実を如何に理解するかを強調していく。また、学生の問題意識を高めるために、制度(税制度など)・データを紹介しつつ、講義において紹介する。学生には、経済学を通じて論理的思考を身につけてもらいたいと考える。ゼミは、3 年次の夏学期に公共経済学のテキストを輪読、夏休み前に卒論のテーマを決める。夏休み中に課題とする英語の文献を与え、冬学期以降、ゼミにおいて報告してもらう。3, 4 年の関係を重視し、夏学期から 4 年のゼミにも 3 年生に参加してもらい、また、3 年生の報告においては 4 年生にコメンテーターをしてもらっている。週一回のゼミに加え、学生に対する個人指導も行っている。

4. 主な研究テーマ

- (1) 地方財政理論(地方分権の理論)
- (2) 最適課税論
- (3) 社会保障(医療経済学)

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

- 『地方交付税の経済学:理論・実証に基づく改革』有斐閣, 2003 年(赤井伸郎・山下耕治との共著)。
『地方財政論入門』, 新世社, 2008 年。
『財政学』, 放送大学出版, 2009 年。
『震災復興 地震災害に強い社会・経済の構築』日本評論社, 2011 年(小黒一正との共著)。
『地方税改革の経済学』日本経済新聞出版社, 2011 年。

(b) 論文(査読つき論文には*)

[査読つき論文]

- * 「報酬の一部がフリンジ・ベネフィットである場合の最適線形所得税」(田近栄治との共著)『経済研究』第 49 号第 3 号, 1998 年, 231-244 頁。
- * "Subsidies versus Public Provision of Private Goods as Instruments for Redistribution," *Scandinavian Journal of Economics*, Vol. 100 (3), 1998, pp. 545-546 (with Robin Boadway and Maurice Marchand).
- * "Information Acquisition and Government Intervention in Credit Market," *Journal of Public Economic Theory*, 1 (3), July 1999, pp. 283-308 (with Robin Boadway).
- * "Agency and the Design of Welfare Systems," *Journal of Public Economics*, 73 (1), July 1999, pp. 1-30 (with Robin Boadway and Nicolas Marceau).
- * "Fiscal Externalities and Efficient Transfers in a Federal System," *International Tax and Public Finance*, 7 (2), March 2000, pp. 119-139.
- * "The Optimality of Punishing Only the Innocent: The Case of Tax Evasion," *International Tax and Public Finance*, 7 (6), December 2000, pp. 641-664 (with Robin Boadway).
- * "Ex ante Free Mobility, Ex Post Immobility and Time Consistency in a Federal System," *Journal of Public Economics*, 82 (3), December 2001 (with Kiyoshi Mitsui).
- * "Intergovernmental Transfers, Governance Structure and Fiscal Decentralization," *Japanese Economic Review*, 53 (1), 2002, pp. 55-76.
- * "Economic Integration and Fiscal Decentralization," *Journal of Public Economics*, 87 (11), 2003, pp. 2507-2525 (with Manuel Leite Monteiro).
- * "Tax Competition, Rent Seeking and Fiscal Decentralization," *European Economic Review*, 47, February 2003, pp. 19-40.
- * "Prior health expenditures and risk sharing with insurers competing on quality," *Rand Journal of Economics*, 34 (4), December 2003, pp. 647-669 (with Maurice Marchand and Erik Schokkaert).
- * "Can Partial Fiscal Coordination be Welfare Worsening? A model of tax competition," *Journal of Urban Economics*, 54, 2003, pp. 451-458 (with Maurice Marchand and Pierre Pestieau).

- * "An Optimal Contract Approach to Hospital Financing," *Journal of Health Economics*, 23, 2004, pp. 85-110 (with Robin Boadway and Maurice Marchand).
- * "Decentralization and Economic Development: An Evolutionary Approach," *Journal of Public Economic Theory*, Vol. 7, Issue 3, August 2005, pp. 497-520.
- * "PAYG pension systems with capital mobility," *International Tax and Public Finance*, Vol. 13 (5), 2006, pp. 587-599 (with Pierre Pestieau, Gwanaël Piasser).
- * "Long Term Care: The State, the Market, and the Family," *Economica*, Vol. 75, Issue 299, August 2008, pp. 435-454 (with Pierre Pestieau).
- * "Longevity, Health Spending and Pay-as-you-Go Pensions," *Finanz Archiv*, Vol. 64, Issue 1, 2008, pp. 1-18 (with Pierre Pestieau, Gregory Ponthiere).
- * "Bureaucratic Advice and Political Governance," *Journal of Public Economic Theory*, Volume 10, Number 4, August 2008, pp. 503-527 (with Robin Boadway).
- * "Too big or too small? A synthetic view of the commitment problem of interregional transfers," *Journal of Urban Economics*, Vol. 64, Issue 3, November 2008, pp. 551-559 (with Nobuo Akai).
- * "Optimal Tax Design and Enforcement with an Informal Sector," *American Economic Journal. Economic Policy*, Vol. 1, Issue 1, February 2009, pp. 1-27 (with Robin Boadway).
- * "Entrepreneurship and Asymmetric Information in Input Markets," *International Tax and Public Finance*, forthcoming (with Robin Boadway).
- * 「応益課税としての固定資産税の検証」(宮崎智視との共著)『経済分析』経済分析第 184 号 2011 年 1 月。
- * 「首都直下地震がマクロ経済に及ぼす影響についての分析」(小黒一正との共著)『経済分析』第 184 号 2011 年 1 月。
- * "A Simple Dynamic Decentralized Leadership Model with Private Savings and Local Borrowing Regulation" *Journal of Urban Economics*, Vol. 70, Issue 1, 2011, pp.15-24 (with N.Akai) .

[その他論文]

- "Optimal Linear Income Taxation in the Presence of Fringe Benefit," Vol. 49, 1998, pp. 231-244.
- "Decentralization and Economic Development in Asian Countries: An Overview," *Hitotsubashi Journal of Economics*, Vol. 41, No.2, 2000, pp. 77-84.
- 「ソフトな予算制約と税源委譲の経済効果」井堀利宏, 岡田章, 伴金美, 福田慎一編『現代経済学の潮流 2001』第 4 章, 2001 年 10 月, 71-109 頁。
- 「地方自主財源の拡充と財政責任の確立—共有税構想(試案)—」『エコノミクス』Vol. 4, 2001 年 4 月。
- 「地方交付税の何が問題か—緩む地方の財政規律と阻害される財政改善努力」(田近栄治, 油井雄二との共著)『税経通信』第 56 巻第 12 号, 2001 年, 23-33 頁。
- 「地方交付税の改革—線形移転制度の提案—」(田近栄治, 油井雄二との共著)『税経通信』第 56 巻第 13 号, 2001 年 10 月, 25-43 頁。
- 「地方交付税に潜むインセンティブ効果—フロンティア費用関数によるソフトな予算制約問題の検証」(赤井伸郎, 山下耕治との共著)『フィナンシャル・レビュー』第 61 号, 2002 年。
- 「地方税の諸問題と分権的財政制度のあり方」『フィナンシャル・レビュー』第 65 号, 2002 年。
- 「地方法人税改革」『フィナンシャル・レビュー』第 69 号, 2003 年 12 月。
- 「保険者機能と管理競争—オランダの医療保険制度改革を例に」国立社会保障・人口問題研究所編『選択の

- 時代の社会保障』(東京大学出版会)第 10 章, 2003 年 5 月, 207-230 頁。
- 「地方分権の政治経済学」土居丈朗編著『地方分権改革の経済学』(日本評論社)第 1 章, 2004 年, 37-96 頁。
- 「地方分権を巡る誤解: 地方財政理論に基づく分権化の再検証」『ファイナンス』2004 年 5 月号(財務省広報)。
- 「地方の自立と財政責任を確立する地方税制改革へ向けて」『フィナンシャル・レビュー』第 76 号, 2005 年 5 月。
- 「保険者機能と管理競争: ガヴァナンス改革の観点からの分析と提言」田近栄治・佐藤主光編著『医療と介護の世代間格差』(東洋経済新報社), 2005 年 8 月。
- 「災害時の公的支援に対する経済学の視点」『会計検査院研究』第 32 号, 2005 年 9 月, 33-50 頁。
- 「地方分権と医療保険制度改革」『病院』2005 年 9 月号, 特集: 地方分権と医療。
- 「政府間財政関係の政治経済学」『フィナンシャル・レビュー』第 82 号, 2006 年 5 月。
- "Limiting the number of charities," CORE Discussion Papers 2006/75, 2006 (with Pierre Pestieau).
- "Entrepreneurship and Asymmetric Information in Input Markets," Queen's University, Department of Economics, Working Papers 1069, 2006 (with Robin Boadway).
- "Estate Taxation with Both Accidental and Planned Bequests," CESifo Working Paper Series No. 1799, 2006 (with Pierre Pestieau).
- "Political Economy of Grants," Boadway, R. and A. Shah ed., *Intergovernmental Fiscal Transfers*, the World Bank, 2007.
- 「医療保険制度改革の課題」『会計検査院研究』第 35 号, 2007 年, 7-25 頁。
- 「医療保険制度改革と管理競争: オランダの経験に学ぶ」『会計検査院研究』第 36 号, 2007 年, 41-60 頁。
- 「地方の自立と地方税の課題: 地方法人課税を中心に」『税務弘報』2007 年 4 月号。
- 「政府間財政移転の経済分析」貝塚啓明編著『分権化時代の地方財政』(中央経済社)第 5 章, 2008 年。
- 「各国医療保険制度—保険者改革への含意」田近栄治・尾形裕也編著『次世代型医療制度改革』(ミネルヴァ書房)第 3 章, 2009 年。
- 「地方分権と地方税のあり方」土居丈朗編『日本の税をどう見直すか』(日本経済新聞出版社)第 5 章, 2010 年。
- 「地震保険加入行動におけるコンテキスト効果について」(齊藤誠との共著)Discussion Papers No. 2010-12, Graduate School of Economics, Hitotsubashi University, 2010 年 10 月。
- 「地域主権と地方法人課税—神奈川県臨時特例企業税を例に」『税務弘報』2010 年 10 月号。
- 「消費税と財政再建」『税研』(財団法人日本税務研究センター)第 154 号, 2010 年 11 月。
- 「消費税と給付付き税額控除」(東京財団政策研究「給付付き税額控除具体案の提言」(2010 年 8 月)所収)
- 「グローバル経済における税制の在り方: 所得課税から消費課税への転換」『一橋経済学』第 5 巻 1 号, 2011 年, 1-20 頁。
- 「所得税・給付付き税額控除の経済学: 「多元的負の所得税」の構築」『フィナンシャル・レビュー』第 102 号特集: 税制改革議論—OECD の議論やマリーーズ・レビューを踏まえて—, 2011 年 1 月。
- "Public Debt Accumulation and Fiscal Consolidation," Center for Intergenerational Studies, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University, Discussion Paper Series No.517(with K. Oguro).
- "Optimal Income Taxation with Uncertain Earnings, " CESifo Working Paper Series No. 3654, November 2011(with Robin Boadway) .
- 「消費税率の引き上げと社会保障・税一体改革」『月刊経済トレンド』2011 年 11 月号。
- 「震災からの経済復興の課題とあり方」『21 世紀ひょうご』2011 年第 11 号ひょうご震災記念 21 世紀研究機構

「政府間リスク分担と東日本大震災の復興財政」(宮崎毅との共著)『フィナンシャル・レビュー』特集: 地方財政—政府間リスク分担—, 第 108 号, 2012 年 3 月。

「地方分権改革の課題」『都市住宅学』77 号 2012 年 4 月。

「社会保障と税の一体改革の顛末」『税経通信』2012 年 5 月号。

"Optimal Income Taxation and Risk: The Extensive-Margin Case"(with Robin Boadway) April 2012, Mimeo.

「サプライチェーンを含む震災リスクの構築に向けて」(英訳)『ジャパンスポットライト』(9・10 月号)Japan Economic Foundation, 2012 年 9 月。

「特集: 海外の社会保障制度における国と地方の関係: 趣旨」『海外社会保障研究』180 号, 2012 年。

「低頻度巨大災害に対する国民の政策選好に関する調査」(永松伸吾・宮崎毅・多田智和との共著)ESRI Discussion Paper Series No.290 (内閣府経済社会研究所)。

「教訓ノート 6-4: 財政への影響」(Laura Boudreau との共著)(英訳)『大規模災害から学ぶ: 東日本大震災の教訓』(世界銀行)。

「震災復興と財政」『月刊金融ジャーナル』2013 年 1 月 11 日。

「地震保険制度の見直しの方向性」『週刊金融財政事情』2013 年 1 月 14 日。

[研究会・シンポジウム報告書]

「地方の税源委譲に関する一考察」『地方財政をめぐる諸問題』(金融調査研究会)第 3 章, 2001 年 10 月, 37-80 頁。

Decentralization and Economic Development: An Evolutionary Approach: in Proceedings for International Symposium "Decentralization and Economic Development in Asian Countries," 2000 (with S. Yamashige).

Intergovernmental Transfers in Japan and Soft Budgets: in Proceedings for International Symposium "Intergovernmental Transfers in Asian Countries: Practice and Issues," 2001 (with N. Akai and K. Yamashita).

Overview: in Proceedings for International Symposium "Pension Reforms in Asian Countries," 2002.

Fiscal Decentralization in Asia Revisited: Theoretical Foundation; in Proceedings for International Symposium "Fiscal Decentralization in Asia Revisited," 2004.

Tax Policy and Reform in Asian countries, *Journal of Asian Economics* Vol. 16 (6), December 2005.

Fiscal Reconstruction: Fiscal Decentralization and Reform of Intergovernmental Relations, 内閣府経済社会総合研究所 2006 年度国際共同研究プロジェクト研究報告書, 2007 年。

「経済学の視点を導入した災害政策体系のあり方に関する研究会」報告書(内閣府経済社会研究所), 2009 年 6 月。

マーズ・レビュー研究会報告書(財団法人企業活力研究所), 2010 年 6 月。

「給付付き税額控除」『税制抜本改革と実現後の経済・社会の姿 報告書』(21 世紀政策研究所)第 4 章, 2010 年 8 月, 63-107 頁。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

"Limiting the Number of Charity," International Institute of Public Finance, Cyprus, August 2006.

"Optimal Tax Design and Enforcement with an Informal Sector," International Institute of Public Finance, Warwick, August 2007.

「グローバル化と税制」公共政策国際コンファランス, 関西社会経済研究所, 2008 年 4 月 19 - 20 日。

"Estate Taxation with Both Accidental and Planned Bequests," International Institute of Public Finance, Maastricht, August 2008.

"Entrepreneurship and Asymmetric Information in Input Markets," Hong Kong Economic Association, 四川省成都, 2008 年 12 月 15 - 16 日。

"Ethical Voting and Political Competition," International Institute of Public Finance, Uppsala, August 2010.

* "Restructuring of corporate income tax: lessons from Mirrlees review and practices on tax reform," Lecture series Max Planck Research Center for Tax Law and Public Finance, Munich, Germany, October 2010.

"A simple dynamic decentralized leadership model with local borrowing regulation and free mobility," International symposium on New issues on fiscal federalism and tax competition, Lyon, France, November 2010.

"Optimal Income Taxation and Risk: The Extensive-Margin Case" International Institute of Public Finance, Dresden Germany, August 2012.

* パネル討論「東日本大震災・原発災害からの復興」第 20 回地方財政学会, 立命館大学, 2012 年 5 月 19 日。

* 震災復興パネル「震災復興と財政」日本金融学会 2012 年度秋季大会, 日北九州市立大学, 2012 年 9 月 15 日。

(b) 国内研究プロジェクト

「現代経済システムの規範的評価と社会的選択」21 世紀 COE プログラム, 研究メンバー(研究代表者: 鈴木興太郎), 2003 - 2007 年度。

「アジアの税財政改革: 少子高齢化とグローバル化への対応」科学研究費補助金基盤研究(A), 研究分担者(研究代表者: 田近栄治), 2005 - 2007 年度。

「社会科学の高度統計・実証分析拠点構築」グローバル COE プログラム, 事業推進担当者(拠点リーダー: 深尾京司), 2008 年度 - 。

「高質の住宅ストックを生み出し支える社会システムの設計」近未来の課題解決を目指した実証的社会科学研究推進事業, メンバー(代表: 齊藤誠), 2008 年度 - 。

「公共と市場のリスク・マネジメント: アジアの公共の在り方についての研究」, 科学研究費補助金・基盤研究(B), (研究代表者: 佐藤 主光), 2012 年 4 月 1 日 - 2014 年度。

(c) 国際研究プロジェクト

「平成 18 年度 少子高齢化の下での持続的成長と財政再建」内閣府経済社会総合研究所国際共同研究プロジェクト, リーダー(国と地方の財政制度改革), 2006 年度。

(d) 研究集会オーガナイズ

COE/RES 医療経済セミナー「アジアの医療制度改革」一橋大学, 2007 年 7 月 28 日。

COE 国際シンポジウム "Tax Reform in Globalization Era: World Trend and Japan's Choice" 邦題「グローバル経済における税制改革: 世界の潮流と日本の選択」東京ステーションコンファレンス・経団連会館, 2008 年 2 月 22 - 23 日。

C. 受賞

"C. A. Curtis"賞(クイーンズ大学経済学部)(博士論文"THREE ESSAYS ON FISCAL FEDERALISM AND FISACL DECENTRALIZATION"に対して)1999 年。

日経・経済図書文化賞, NIRA 大来政策研究賞, 租税資料館賞(いずれも『地方交付税の経済学』(有斐閣)に対して)2004 年。

第 52 回エコノミスト賞(「地方税改革の経済学」に対して)(日本経済新聞出版社)2012 年。

6. 学内行政

(a) 役員・部局長・評議員等

一橋大学国際・公共政策研究部 国際・公共政策大学院長(2012 年度 -)

(b) 学内委員会

Hitotsubashi Journal of Economics 編集委員(2002 年度 -)

「一橋経済学」編集委員

学部教育専門委員(2007 - 2008 年度)

オープンキャンパス実施専門委員会委員(2008 年度)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

日本医科歯科大学

放送大学(財政学担当)

(b) 所属学会および学術活動

日本経済学会

日本財政学会(雑誌『財政研究』編集委員)

Journal of Public Economics 編集委員(Associate Editor)

国際財政学会(Board Member)

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

「地方分権に関する基本問題についての調査研究会」委員(総務省・財団法人自治総合センター)

国家公務員採用Ⅰ種試験専門試験(記述式)試験専門委員(公共政策), 人事院

21 世紀政策研究所「あるべき税制に関する委員会」委員

「政策評価・独立行政法人評価委員会」臨時委員(総務省行政評価局)

「地方公共団体向け財政融資に関するワーキングチーム」委員・副座長(財務省理財局)

政府税制調査会専門委員(- 2009 年度)

内閣府「地域モデル研究会」委員(2008 年度)

経済産業省「経済社会の持続的発展のための企業税制改革に関する研究会」委員(2008 年度)

立川市行財政問題審議会員(副座長)

「災害政策体系のあり方に関する研究会」委員・座長(内閣府経済社会総合研究所)(2008 年度)

内閣府・民間資金等活用事業推進委員会委員(2009 年度 -)

国土交通省政策評価レビュー委員(2009 年度 -)
企業活力研究所「マリーヌ研究会」委員(2009 - 2010 年度)
RIETI 産業政策検討会委員(2010 年度 -)
内閣府・行政刷新会議「事業仕分け」民間評価者(2012 年 11 月)

9. 一般的言論活動

「必要なのは効率化への手当て」月刊誌『改革者』(政策研究フォーラム), 2009 年 1 月号。
「日本の競争力アップは法人税の抜本改革で」月刊『公明』, 2010 年 10 月号。
「我が国の財政危機—その現状と克服—」蔵前工業会(東京工業大学)セミナー講演, 2010 年 11 月。
「試案—消費税増税のあり方 2020 年度には 15%にして社会保障と財政再建を両立させる」『エコノミスト』, 88(43), 2010.7.27, p.81。
「震災と復興財源」『経済セミナー増刊 復興と希望の経済学 東日本大震災が問いかけるもの』, 2011 年 9 月。
「消費税増税: 信認への課題 4」『日本経済新聞・経済教室』, 2012 年 3 月 1 日。
「減税や補助金による企業誘致政策の限界—地方税改革の視点から」日経グローバル 5 月定例会, 2012 年 5 月。
「地方分権と経済発展」『旬刊 経理情報』, 2012 年 6 月 10 日号。
「所得課税の再構築が急務だ」(エコノミスト賞受賞記念論文)『週刊エコノミスト』, 2012 年 8 月 14・21 日号。
「やさしい経済学シリーズ: 税の仕組みと本質」『日本経済新聞』, 2012 年 10 月 29 日～ 11 月 8 日。
「学者に聞け! 視点争点 最適課税からみた消費税のメリット」『週刊エコノミスト』, 2012 年 11 月 12 日号。
「学者に聞け! 視点争点 維新の消費税の地方税化は妥当か」『週刊エコノミスト』, 2012 年 12 月 25 日号。